

32. *Cryptophilus propinquus* Reitter, 1874 ヒメムクゲオオキノコムシ

Reitter氏によって "Japan" 産で記載された(1874)。中根博士によって図説されている(1958, 1963)。

分布は本州, 四国, 九州, 台湾となっているが, 小さい種(体長 3.2mm)なので見つけにくいのかも知れない。神戸市内でビッドホールトラップに入ったのが採集出来ている。

産地: 神戸市須磨・妙法寺(1ex., 11-XI-1978, 1ex., 7-XII-1979, 1ex., 27-II-1979)。

以上, 兵庫県産オオキノコムシ科 32種の記録をしたが始めに記したようにまだまだ不十分で, もっときめ細い調査をしなければいけないと思うし, そうすればもっと産する種も増加することだろうと考えている(本州産の半数以上は産するように思われるのだが—)。

(May, 1983)

追 記

1983年中根博士によって鹿児島産2新種が記載された(Frag. Coleop. Pars. 35/37: 144-145, Fig. 18, 19), そして従来 *Tritoma basalis* Lewis, 1887 ネアカチビオオキノコムシは既に北米産 *T. basalis* Lacordaire, 1842 があるので新に学名に *T. lewisianus* Nakane が命名された。之で日本産オオキノコムシ科は始めに紹介したものに2種が加わって98種になる。尤も本州産は77種のまゝである。

兵庫・神戸を原産地とする甲虫類について (1)

(兵庫県甲虫相資料・133)

高 橋 寿 郎

江戸末期に洋学の知識が入ってくるとともに日本を訪れる欧米人も多くなり各種の学問がこれら欧米人によって発展を始めた。

日本の昆虫学の発展もこれ等欧米人によってその基礎がきづかれたことは衆知のことである。

兵庫, 即ち神戸も兵庫の港として古く開けたので欧米人の来訪者の多くが兵庫に立寄り, 或いは滞在して昆虫の採集をしたりし, その関係で兵庫に関する昆虫の研究も日本の昆虫の研究とほぼ同じ位の時代から知られていることになる。したがって兵庫(Hiogo or Hyogo)を原産地とする昆虫は数多く記載されている。

当時の兵庫は勿論、兵庫県の兵庫でなく兵庫港の兵庫を表現しているわけで現在の神戸市兵庫区から東須磨あたり迄が兵庫であり、東は神戸村であった。神戸という名は1879年4月に従来の神戸村と坂本村及び兵庫村が合併したことに始まっている。

G. Lewisの第1回の日本滞在中(1864~1872)の採集品が日本の甲虫の研究の基礎(同時に兵庫県の甲虫の研究の基礎)となっていることは良く知られているが、HiogoばかりでなくKobeという名も出てくる。その区別は上記した区別によっているが、共に現在の神戸市内にあたる所を意味している。ほとんど未開の地であり現在とはくらべものにならない自然状態であった(例えば今手許にある明治2年版兵庫港地図などを見ると人の住んでいる所は現在の兵庫区にある中央卸売市場を中心とした地域である。1983年7月の神戸市は面積543.57㎏、人口1,392,240人)。最近神戸の英字新聞ジャパンクロニクル社が大正7年(1918)に“Jubilee Number 1868-1918”を編集・発行したのを訳したものが“のじぎく文庫”から“神戸外国人居留地”と題して出版された(1980)。その中で兵庫開港(1868年)当時の神戸の様子(兵庫は兵庫港として湊川から西の地としている)を説明している。“川崎の突端から生田までの海岸は見渡すかぎり一面の砂浜で、そのなかに布引の滝から流れている小さな川があって海に注いでいた。当時の神戸は湊川にかゝる橋の上から生田神社の参道までつゞく曲りくねった細長い町で……”。生田神社の周辺は野原で冬の陽ざしをうけ荒涼としていた。背後には諏訪山をはじめとする丘陵が連なり、木がこんもり茂っているのもあれば地肌が露出している丘もあってそのうしろから海拔2500フィートの摩耶山が頂上を見せていた。摩耶山の東側には後年避暑地となり、また日本で最初のゴルフ場が造られることになる六甲山がそびえていたと。また布引の滝は雄大で美しく、芸術家が訪れるのにふさわしい小型のナイアガラだと。摩耶山の杉の大森林はレパノンの例の巨大なヒマラヤ杉よりこちらの方が立派であるとほめ、摩耶山上の天上寺周辺の森にはたくさんのシカが生息していて摩耶山と居留地の内で日本でこれまで見たこともないような大きなシカを仕留めた。神戸の裏山でもシカを仕留めた。またサルが群れが遊んでいるのが裏山で見られたと。とに角ルイスが兵庫で採集した頃の兵庫・神戸には人の住んでいる所はごく僅かで、その大部分が自然のままであった様子がよくうかゞえる(拙宅の近所も人家のほとんど無い地であったようである)。そこでこれ等の地で採集されたもので新種として発表されたものでもその後全く採集されないものもあれば、はたして兵庫・神戸からのものであろうかとの疑いをもちたいものも含まれていたりする。一々全部に就いての検討は出来なかったが、一応手許にある文献でこれ等兵庫・神戸を原産地(その総てにわたりTypeに関する記載は無い。したがって記載時に使用した標本の産地と言う意味になる)として発表された昆虫類の中から甲虫類だけを取り出して分類順に検討、現在の産出状況も出来るだけ簡単に解説して見ることにした。学名は現在使用されているものにする様にしたが、浅学未熟のためよくわからない種も結構多くあり、その点では大変不十分な収録のしかたとなっている。特にハネカクシ科の分類に就いては良くわからないのに多数の種が

あるので、そのまま記録しておいた（新種記載以外兵庫・神戸から記録された甲虫類も之また大変多くある。今回はこれ等の種に就いての言及は一切していない）。

収録範囲は大体日本人による日本の甲虫の分類学的研究が始った大正10年（1921）頃迄のものを取扱ったが、一部神戸に在住したJ・E・A・Lewisの採集品に基くCameronの論文（1930年、昭和5年、1933年、昭和8年）もふくめた（引用文献に就いては拙著“兵庫県産甲虫類に関する文献目録、改定版、1981年”を参照して頂きたい）。

今回ここに収録した種は全部で46科346種となる。その内、割合多く含まれているグループは次の通りである。

オサムシ科 55種、ハネカクシ科 78種、コガネムシ科 21種、ゴミムシダマシ科 17種、カミキリムシ科 25種、ハムシ科 21種。そして原記載以後県下での記録の見られない種が84種ある（内ハネカクシ科だけで50種。筆者が見得た文献上での記録が見られなかったもので見落しているのがあるかも知れない。それ等に就いて御教示頂きたい）。

やはり問題となるのは同定の間違と産地の不確なことである。

記載者、記録者が採集者で無いのが多いことから生態的な記述がほとんどないし、産地も大変漠然としているのが多い。データもほとんどついていない。その意味からは大変不十分なものと言わざるを得ない。分類学的には研究の進展と共にその取扱が変ってくるもののあるのは止むを得ることである。

併しながら、自然状態が変ってしまっているとは言え、その当時採集され記載された甲虫類についてその後全く調査の手がつけられていないものが多くある。案外と身近に棲息しているかもしれないこれ等虫たちの調査が等閑視されている現状が大変淋しい（John. E. A. Lewis氏が神戸で採集された多くのハネカクシ科標本でCameronが新種記載をされているが、それらの産地、Shinohara - 篠原, Gomo - 五毛, Ueno - 上野, Oishi - 大石, Harada - 原田, Cascade Valley 摩耶山と六甲山間の袖谷等々はいづれも現神戸高校付近でこのあたり比較的開発がされていないように思われる。J. E. A. Lewis氏の採集されたハネカクシ類は現在も元気にいると考えられる）。

また他方では、県下の甲虫たちの分布調査が現在でもほとんど出来ていないと言う点も忘れてはならないと考える。

可成り長文になるので何回かにわけて発表させて頂くことにしたい。

1.** *Eustra japonica* Bates, 1892 エグリゴミムシ

Lewisが1896年に*Eustra batesi* Lewisとして新種記載をした。九州では石の下とか朽ちた樹の樹皮下に普通におり、しばしば群居すると。またKashiwagi及びMaiyasan near Kobeでも得たとある。兵庫県下での記録は必ずしも多くない。尚LewisはBatesが*Eustra plagiata* var. *japonica* Bates, 1892 としているが異るとしている。*E. plagiata* Schmidt-Gobelとは異なるが、現在上記学名が用いられている。

1. *Calosoma maximowiczi* (Morawitz, 1863) クロカタビロオサムシ

Batesにより(1873)*Calosoma mikado*なる新種記載をHiogo産の1♂でされた(栗の樹上で得たと)が学名は上記となる。鱗翅類の幼虫を捕食するのでクスギの樹上にいることが多い。現在での県下での個体数は必ずしも多くない。

2. *Carabus (Ohomopterus) insulicola maiyasanus* Bates, 1873 マヤサン
オサムシ

神戸の標高2000フィート摩耶山の天上寺(Moon-temple)においてのみ見出されるとして*Carabus Maiyasanus* Bates, 1873 と命名記載されたが、学名は現在上記のごとくになる。本種は県下には可成り広く分布し場所によっては個体数も大変多い。

3. *Carabus (Ohomopterus) yaconinus* Bates, 1873 ヤコンオサムシ

Hiogo. 県下に普通に産す、特に市街地に近い所に多い。中根博士によると本種の学名は変らなくてはならないかもしれない(1977)。

4. *Nebria macrogona* Bates, 1873 オオマルクビゴミムシ

Hiogo. 多いとある。記録は割合あるが現在の産出状況は一寸わからない。

5. *Nebria pulcherrima* Bates, 1873 フタモンマルクビゴミムシ

Hiogo. この種も余り記録は無く、また現在の産出状況がよくわからない。

** 科ごとに種には便宜的に番号をつけた。

6. *Scarites terricola pacificus* Bates, 1873 ナガヒョウタンゴミムシ
 Hiogo. 日本の Hiogo, Nagasaki の粘土質の地では普通にいる種と思われる。当初 *S. pacificus* として独立種で記載されたが、現在は上記の学名で取扱われている。
7. *Clivina lewisi* Andrewes, 1927 クロヒメヒョウタンゴミムシ
 神戸が原産地で J. E. A. Lewis の採集品によると (中根, 昆虫と自然, Vol. 13, No. 1 : 6, 1978)。柴内, 中畔両氏によると神戸市近郊にはかなり産するようで、砂地の石下等に棲息していると (1950)。
8. *Clivina niponensis* Bates, 1873 ヒメヒョウタンゴミムシ
 Hiogo. 本種の記録も今迄ほとんどなかったが、最近神戸市須磨・妙法寺でピットフォールトラップによる採集で割合得られた。案外いるのかもしれない。
9. **Dyschirius ordinatus* Bates, 1873 チビヒョウタンゴミムシ
 Hiogo. 多く得たとある。
10. **Dyschirius Hiogoensis* Bates, 1873 コチビヒョウタンゴミムシ
 Hiogo. 多く得たとある。
11. **Dyschirius sphaerulifer* Bates, 1873 マルクビチビヒョウタンゴミムシ
 Hiogo. 2匹得たとある。
Dyschirius 属上記3種はいずれも Hiogo 産で Bates により新種記載されている。併し2種に就いては多く得たとある。ところがその後全く採集出来ていない。海岸線とか河川の状況が変わってしまった現在、はたしてこれ等の種が県下に分布しているかどうか大変興味のある問題である。
12. *Perileptus japonicus* Bates, 1873 ホソチビゴミムシ
 Hiogo. 余り分布が知られていない。
13. *Trechus ephippitatus* Bates, 1873 ヒラタキイロチビゴミムシ
 基本型は長崎産で変種を兵庫から得たとある。割合県下に広く分布しているようである。

* 印, 原記載以後兵庫県から記録のみられない種。

14. *Bembidion (Blepharoplataphus) hiogoensis* (Bates, 1873)

ヒョウゴミズワゴミムシ

兵庫の砂地と神戸の浜でも得たと。*Bembidium (Peryphus)* 属で記載されている。余り採集例が無い。

15. **Bembidion (Peryphus) consummatum* (Bates, 1873) アトキミズギワゴミムシ

神戸の浜で得たと。*Bembidium (Peryphus)* 属で記載されている。この種は本州から九州まで分布しており、川原の石の下などから見出されるとある。兵庫県から Bates の記載以後記録が見られなかったが、多分調査不充分のためだと思われる。

16. *Bembidion (Trichoplataphus) lissonotum* (Bates, 1873)

オオアオミズギワゴミムシ

兵庫の砂地で得たと。*Bembidium (Peryphus)* 属で記載されている。川辺、川原に多いということであるが、県下の分布は余り知られていない。

17. *Perigona (Trechius) nigriceps* Dejean クロズホナシゴミムシ

Perigona tachyoides Bates, 1883, Kobe として記載されている。場所によっては多く産するようである。

18. *Trigonotoma lewisi* Bates, 1873 ルイスナガゴミムシ

Hiogo. 県下では割合多く産する。

19. *Pterostichus (Argutor) longinquus* Bates, 1873 コホソナガゴミムシ

Hiogo. 県下での記録は案外少ない。

20. *Pterostichus (Eosteropus) prolongatus* Morawitz オオクロナガゴミムシ

Hiogo. *Pterostichus (Steropus) tropidurus* Bates, 1873 として新種記載されたものであるが、県下での記録は少ない。

21. *Pterostichus sphadriformis* Bates, 1873 ヒョウゴナガゴミムシ

Hiogo. 4匹得たとある。県下中央部より北に記録はある。中根博士によると現在採集されるもので、この種とされるものは♀上翅に光沢がなく原記載に合致しないと。大英博物館所蔵の

type 標本の写真と腹端部とを示しておられる(1983)。

22. *Platynus (Pseudoplatynus) magnus* (Bates, 1873) オオヒラタゴミムシ
Anchomenus (Limodromus) 属で記載。Hiogo. 広く産するようである。
23. *Agonum (Agonum) chalcomus* (Bates, 1873) アオグロヒラタゴミムシ
Anchomenus (Agonum) 属で記載。Hiogo. 広く産するようである。
24. *Agonum (Glaucogonum) sylphis* (Bates, 1873) キンモリヒラタゴミムシ
Colpodes 属で記載。Hiogo. 2匹得たとある。余り産地が知られていない。
25. *Agonum (Lissagonum) lampros* (Bates, 1873) コハラアカモリヒラタゴミムシ
Colpodes 属で記載。Hiogo. 多しとある。広く分布しているようである。
26. *Agonum (Cyrochaetostylus) atricomus* (Bates, 1873) クロモリヒラタゴミムシ
Hiogo. いくらか得たとある。*Colpodes* 属で記載。割合いる種のものである。上記3種の
取扱は土生博士(1978)による。
27. *Pristosia aeneola* (Bates, 1883) ホソヒラタゴミムシ
Eucalathus aeneolus, Hiogo として記載されている。割合いそうである。
28. **Parabrosicus crassiplpis* (Bates, 1873) フトクチヒゲヒラタゴミムシ
Taphria 属で記載。Hiogo. 1匹得たとある。その後全く記録が無い。Habu博士の図説があ
る(1978)。
29. *Synuchus (Synuchus) callitheres* (Bates, 1873) キアツヤヒラタゴミムシ
Dolichus 属で記載。Hiogo. 1匹得たとある。割合いそうである。
30. *Synuchus (Synuchus) dulcigradus* (Bates, 1873) ヒメツヤヒラタゴミムシ
Pristodactyla 属で記載。Hiogo. 余り多くないようである。

31. *Amara (Celia) chalcophaea* Bates, 1873 コアオマルガタゴミムシ
Hiogo. 多しとある。その後の記録は余りない。
32. **Amara (Celia) laticapus* Bates, 1873
Hiogo, 2頭得たとある。その後の記録が全く無い。
33. *Bradytus ampliatus* Bates, 1873 キアシマルガタゴミムシ
神戸の砂丘で得た、黒い変種もまた兵庫で得たとある。割合いそうである。
34. *Curtonotus hiogoensis* Bates, 1873 ヒョウゴマルガタゴミムシ
Hiogo. 割合いそうである。
35. **Harpalus (Acardystus) rubefactus* Bates, 1873 アカゴモクムシ
Hiogo. 本種もその後の記録がない (Habu, 1973)。
36. *Harpalus (Harpalus) chalcensus* Bates, 1873 ツヤアオゴモクムシ
Hiogo. 余り多くいる種ではなさそう。
37. *Harpalus (Acardystus) platynotus* Bates, 1873 ヒラタゴモクムシ
Hiogo. 余り多くいる種ではなさそう。
38. *Platymetopus flavilabris* (Fabricius) カラカネゴモクムシ
Platymetopus corrosus Bates, 1873 Hiogo として記載された種である。割合
いる。
39. *Dicheirotichus tenuimanus* (Bates, 1873) キベリチビゴモクムシ
Trichocellus 属で記載。Hiogo. 記録がほとんどない。
40. *Bradycellus (Tachycellus) subditus* (Lewis, 1879) コクロヒメゴモクムシ
Tachycellus 属として記載。Hiogo. 沼地には普通にいとされている。記録の方は割合少
ないようである。

41. *Stenolophus (Stenelopus) iridicolor* Redtenbacher ツヤマメゴモクムシ
Stenolophus chalceus Bates, 1873 として Hiogo 産で記録された種が本種であると(大倉正文氏の御教示による)。1匹得たとあるが県下に広く分布している。
42. *Diplocheila (Diplocheila) elongata* (Bates, 1873) スナハラゴミムシ
 Rembus 属で記載, Hiogo. 県下での海岸線が変ってしまっている関係かそれ程多く見られない。
43. *Chlaenius (Chlaenius) ocreatus* Bates, 1873 クロヒゲアオゴミムシ
 Hiogo. 割合産する。
44. *Oodes vicarius* Bates, 1873 オオトックリゴミムシ
 Hiogo. 余り採集例は無い。
45. *Lachnocrepis (Eulachnocrepis) prolixus* Bates, 1873 トックリゴミムシ
 Hiogo. 割合広く分布している。

(オサムシ科未完)

武庫川のヒメジュウジナガカメムシ (続報 その1)

新 家 勝

I はじめに

武庫川におけるヒメジュウジナガカメムシ(以下、本種と言う)の分布および生態について1981年に観察した結果を本誌第10巻第1号に中間的に報告したとき多くの未観察の部分を残していた。1982年も引続き本種の生態観察を続けたところ、更に多くのことが分かったので報告する。

II 観察結果

(1) 1982年の発生概況

1982年には武庫川川敷内の10箇所では本種の発生が見られた。このうち新たに発生が見られた場所は4箇所、引続いて発生が見られた場所は3箇所、放虫により発生したと思われる場
 きべりはむし, vol.11, No.2:48-55.